

自律的に活動する能力を身に付けるには

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

8月8日の木曜日に、宇都宮市の教育委員会で第4回の学校教育制度に関する懇談会がありました。学校制度、学校の教育制度をどんなふうにするかという、宇都宮市教育委員会が去年からずっと取り組んでいる懇談会の第4回目がありました。なぜか私も懇談会の委員の一人にさせていただきました。議論をさせてもらいました。

非常に熱心に、小・中学校における新たな教育制度をどうしようか、特に小学校と中学校の6年間と3年間、足して9年間でどのようにするかが議論されています。小中一貫にして、小学校と中学校の連携を強化して、新しい学校をつくるのがいいか、それとも、形は今まで通りで、中味で小学校と中学校の連携をもっと深くしたほうがいいのか、教育の内容をどんなふうに変えるのかとか、教育課程が大幅に変更されつつある中で、義務教育のニーズに応じて子どものよさをどんなふうに伸ばしたらいいのか、そのために学校教育制度をどんなふうに見直したらいいのかなどなど、非常に熱心な議論がありました。

2. まずは「自立」し、次に「自律」を

(1) 私がそこで一番お願いしたかったのは、学力とは何か、能力とは何かということの基本にすえて議論をすべきということです。私は、そのことを今日は皆様と一緒に考えたいと思います。強化すべき能力として、私は3つあると思います。

1つは、学校などで身に付けている様々な知識をうまく使いこなす能力です。

2つめは、これからグローバル化やいろいろな形で外国の方とも一緒に仕事をしなくてはならない。それから、価値観の違う方とも交流をしなくてはならないですから、異質な集団の中で交流できる能力も大事だと思います。

3つめは、これが一番で、先日の宇都宮市の学校教育制度に関する懇談会でもこういうことに力を入れてくださいということをお願いしたのですが、「自律的に活動する能力」です。この場合の自律というのは、「自分自身で立つ」という意味もありますが、同じ発音で「自分自身を律する」「自分自身をコントロールする」という意味での「自律」という漢字があります。私は、「自分自身で立つ」これも大事ですけれども、やはり教育の目的の一つとして、「自分自身をコントロールする」「自分自身を律する」という意味での「自律的に活動する能力」を身に付けてくださいということをお願いしました。

(2) 「自律的に活動する能力」とは

今日は、もう少し詳しく皆様とご一緒に「自分自身を律する」ということについて、どのようなことが自分自身を律することか、そのような活動をする能力とは何かについて考えていきたいと思います。

どのような状況の下でも、自分自身と自分のまわりにいる人々の人間としての尊厳、大切さ、それを保ちながら、よりよく生きることが大切と考えます。ただ、一番大事なものは、自分自身で立つという意味での「自立」です。自分自身で立つことができはじめて、そういうふうな自立があってはじめて、その後に自分自身を律することができるのではないかと思います。

では、「自分自身で立つ」ということはどういうことか。

- (ア)例えば今は夏休みですから、お子様が自分自身の力で起きられる。これが「自立」です。もし起きられない場合は、目覚まし時計を寝る前にセットするのも大事な能力です。自立のための能力です。
- (イ)次に、身仕度は自分でできる。その日の予定を確認しながら忘れ物のないような形で出掛ける準備ができる。この出掛ける準備ができることも、やはり「自分自身で立つ」という意味での「自立」です。
- (ウ)これに加えて、約束の時間の10分か20分くらい前にその場所に到着できる、つまり遅刻しないで約束した予定時間の少し前に到着できることも大事な能力です。
- (エ)もっと言えば、今は夏ですので非常に暑いですから、必要な時間に水分をとったり、必要な時間にバランスのよい食事がとれる。これも自分自身で立つという意味での「自立」だと思います。
- (オ)また、自分一人で身のまわりの整理ができる。
- (カ)風呂やシャワーを使って身体の清潔さを保てる。
- (キ)夜は決まった時間に床に就き、十分な睡眠がとれる。
 - * こういう意味での、自分の力で立つという意味での「自立」が大事かと思えます。
- (ク)それから、自分自身で立つことの中には、学校卒業後は生活できるだけの収入を生活する人と共に、つまり一つの世帯で得ることも自分自身で立つという意味での「自立」に入ると思えます。
 - * 例えば以上のようなことが、自分自身を律する手前の「自分自身で立つ」という意味だと思います。

では、自分自身を律するということはどんなことでしょうか。

- (ア)私は、「自分自身をコントロールする力」だと思います。これが「自律」、「自分自身を律する」。
- (イ)どこに行っても、世の中には自分以外の他人も存在します。自分以外の他人も、誰もが自分と同じように自分自身を大切なものだと思って生きているのだと思います。このことを厳粛な事実だと認めることが大事です。これが「自律」を考える第一歩、最初だと思います。「自分自身を律する」とは、自分も大切、他の人も大切。相手の立場を尊重することです。
- (ウ)それから次は、世の中にはルールがあることを知ることも大事だと思います。全てのスポーツにはルールがあって、どんなに力があってもルールに違反したプレイはルール違反になって認められない。同じように、世の中でもルールに反した行動は評価されないわけです。例えば、もしそのことをやったりやらないことが、極端な言い方をしますけれども、国家刑罰権の発動である刑罰を課するに値する行為、つまり刑法に反する行為であれば、これはその本人は悪いことをしていると思わなくても、刑法に違反していることをやったら犯罪です。例えば、人を殺したり、人を傷つけたり、暴行をふるったり、そういうことは、刑法では刑罰をもって罰すると規定されている犯罪行為です。ただし、自分自身を律する上で刑法や法

律に触れなければ何をしてもいいのかということ、そんなことはありません。どんなことがあっても刑法その他の法律に触れないことは大事ですが、これに加えて、人としての道に反しないことも大切です。お天道様に恥じない行動をすることも大切です。

(エ)では、何が人としての道に反しないのか、お天道様に恥じないのかということ、それをどこから学ばいいのかということ、一番簡単な考え方は、自分がされて嫌なことは他人にもしないとか、よく考えればそうされたら嫌だなと思うことは他人にはしないとか、そういう意味での想像力というか、推測能力を持つことが大事かと思います。

(3) 「自律的に行動する能力」を身に付けるには

では、このようなことはどのようにやったら勉強できるのか。新聞を毎日1時間くらいなめるように読むこと。CRT やラジオ、TV のニュースをよく聞くとかすること。特に新聞を読んで考えることは、何をやっていいか悪いか、「自律心」を育む上でとても役に立つと思います。

本を腰を落ち着けてじっくり深く読んで考えることも大切です。思慮深い人間、自省心のある人間、深くものごとの本質を考え抜く人間になるには、本を深く、深く、6回くらいは読むことが求められると思います。本を深く読み、志(こころざし)を高く持って人生を歩んでいただきたく希望します。「自律」の前提は、「高い志」と私は考えます。

とりわけ孔子の教えを書き記した「論語」を少しずつ声に出して読み続けることを、私はお勧めします。中世から江戸時代の日本人は、この古典中の古典である論語で深く深く人間としての生き方を考えたようです。江戸時代の末期に日本を訪れた多くの外国の方が、日本人の高い倫理性、行き届いた躰を世界最高水準であると高く評価しています。日本人の知性、倫理性、道徳心の高さ、立居振舞いに非常な感銘を受けた外国人が多いようです。これは、江戸時代には日本全国で寺子屋や藩校、私塾で幼少の頃から論語の素読をすごくやっていたためではないかと思われます。今からでも遅くはありません。勉強不足の我々現代人は、大人になってもぜひ論語に親しみましょう。一生かけて少しずつ読むに値する本として、私の一番のお勧めは論語です。

3. おわりに

(1) 本日は、先日私が委員の一人となっている宇都宮市教育委員会での第4回学校制度改革に関する懇談会が開かれましたので、その内容と、人間として身に付けなければならない3つの大切な能力の1つである「自律的に活動する能力」をどのようにしたら身に付けることができるかを、皆様とご一緒に考えました。

(2) まずは「自分自身で立つ、生活する」という意味での「自立」が大事。次に、「志」を高く持ち、自分自身を律する、コントロールする「自律」的に活動することの大切さを考えました。

(3) 人生は長いですから、できること、自分に合ったところから少しずつやっていきましょう。

- 2008年8月8日加筆 -